ギカイレポート

総務経済常任委員会

《報告書》

行政視察　1月14日　テーマ「オーガニックビレッジ宣言」「風の丘ファーム」

小川町（埼玉県）

委員長のひとこと

小川町環境農林課の説明や「風の丘ファーム」の現地での説明で、有機農業については歴史があり、町を挙げて有機農業を進めていることや、生産から販売まで一貫して進めていることもよく分かりました。また、有機農家と慣行農家※の対立構造はなく、お互いに理解をしているとのことで、オーガニックビレッジ宣言によって移住者に有機農業を希望する方も多いということであり、当市としても参考になるものであり、大変有意義な視察でした。

小川町では、後継者問題や品質や収穫量において課題があるということなので、本市としても注視していく必要があると感じました。

※化学肥料や農薬、農業機械などを用いて、その地域で一般的に行われている農業

健康福祉常任委員会

《会議録》

委員会審査　1月14日　請願の“その後の取組”を審査

過去に趣旨採択した「重度障害者の就労に関する請願」「加齢性難聴問題に対する所沢市の施策を充実してください」の2つの請願のその後の取組を調査するため、委員会で審査しました。

請願審査の詳細はコチラ➡

「重度障害者の就労支援について」

Q 請願を趣旨採択した結果、重度障害者に対する支援という意味において、市として認識が深まったとか、一歩前進したことはあるか。

A 今までは就労を希望する重度障害者の方から状況をお聞きする機会が非常に少なかったのですが、請願者も含めて、当事者から話を聞く機会は着実に増えるのではないかと考えています。

「高齢者の聞こえ支援について」

Q 本市は中核市を目指しており、いろいろな意味で日本一を目指しているので、高齢者の方への聞こえ支援を検討できないか。

A 補聴器購入への補助は財政的な課題があり、国が対応すべきことだと考えていますが、どんな人であっても、その人らしく生きていけるよう地域の方々の理解が得られるようにしていきます。

建設環境常任委員会

委員会審査　1月21日　第2一般廃棄物最終処分場（やなせみどりの丘）を現地調査

所在地　所沢市大字南永井字井頭1071番1外

平成元年4月から所沢市北野一般廃棄物最終処分場にて埋め立てを行ってきましたが、平成17年3月末で埋め立て終了となりました。現在は県営処分場（埼玉県環境整備センター）や民間処分場（山形県米沢市、群馬県草津町）に埋め立てをお願いしていますが、本年7年9月に新たな一般廃棄物最終処分場の竣工を予定しています。

完成予定図（令和7年9月 竣工予定）

市民文教常任委員会

政策討論会　２月８日　『どう考える？所沢市の特別支援学級を！』

委員会では、令和５年から『所沢市における特別支援学級の充実』を活動テーマに調査・研究してきました。今回の政策討論会では、執行部への審査、市内の特別支援学級の現地調査、他市の先進事例の視察を踏まえて、本市が取り組むべき特別支援学級の充実について各委員が見解を述べました。

座　長　植竹　成年

委員間討論

特別支援学級に関する現状の教育ノウハウを教育に関わる人々で共有しながら、教育の質の維持、向上するべき。日野市のように推進計画を策定して、必要な人員、予算を確保し、特別支援教育を進めていくべき。

副座長　谷口　雅典

インクルーシブ教育と特別支援学級の選択肢をしっかり示してほしい。特別支援教育では人的支援も必要となるので、地域資源を使える仕組みづくりを進めるべき。０歳から１８歳までの切れ目ない支援をしてほしい。

神戸　鉄郎

障害児を分離した特別支援教育の中止要請が国連からあったが、保護者も特別支援学級の設置を望む方と通常学級で一緒に学ぶことを望む方に分かれる。通常学級で障害を持つ児童生徒と一緒に学ぶことも必要ではないか。

青木　利幸

こどもたちは学習を受ける権利がある。様々な障害を持つお子さんがいて、いろいろな考え方の保護者がいるので、専門家や教育委員会、福祉部がこどもたちの最善の利益を一緒に考えて、計画をつくっていかなければいけない。

花岡　健太

１年単位の目先の支援ではなく、就労を含めた自立ができるよう、長期的な視点に立った支援が必要だと考える。学校関係者には児童生徒にとって何が最適なのかを保護者が判断できるような助言を行ってほしい。

長岡　恵子

特別支援学級に通うことが必要ではないかと言われた児童の保護者は大変悩むし、葛藤すると思うので、ケアが必要である。こどもたちも、家に帰れば地域の一員なので、地域で積極的な交流を持つ機会を増やしてほしい。

石原　昂

配慮が必要な児童生徒への支援が、担任まかせにならないようチームでの支援を意識すべき。特別支援学級の教員の３３％しか特別支援学校教諭免許状を取得していないが、全ての教員に求められる資質である。

大久保　竜一

委員会審査　２月１０日

所沢市における特別支援学級の充実に向けた提言

本市では、障がいのある児童生徒が将来の社会的自立に向けて、一人一人に合った学校教育に取り組み、そして、こども達の力を最大限伸ばすことができるよう、特別支援学級の設置が進められている。

市民文教常任委員会では、特別支援学級に在籍する児童生徒数が増加傾向にあるということ、また保護者からのニーズが多様化している現状から、特別支援学級の充実について、令和５年に兵庫県芦屋市を、令和６年に東京都日野市、静岡県静岡市を視察し、埼玉県和光市の難聴特別支援学級及び本市における特別支援学級の現地調査を行ってきた。さらに、閉会中の審査において、参考人として本市の特別支援教育に精通する坂本條樹（さかもとじょうじゅ）氏を委員会に招き審査を行った。その後、政策討論会を開催した結果、当委員会として、継続した特別支援学級の増設と教育環境の充実が必要と考え、今後の本市の取組に対し、下記のとおり提言する。

1. 特別支援学級に関する計画策定及び計画に基づく取組を検討すること
2. ニーズの多様化に伴い巡回型といったアウトリーチ支援を検討すること
3. 通常学級と連携した教育環境の充実を推進すること
4. 教員の人材育成とともに特別支援学校教諭免許状取得の推進強化に努めること
5. 新たに特別支援学級に関する専門チームの設置に努めること

教育委員会に提言を手渡しました